

出張報告書(海外用)

1/6頁

所属 (大学・短大)	京都文教大学	所属 (学科・部署)	総合社会学科	作成日	2024年9月25日
職 名	教授	出張者氏名	馬場雄司		
日 時	2024年8月20日 (火) 7時30分	～ 2024年8月31日 (土) 19時	うち機中泊	泊	
行 先	タイ王国チェンマイ、ナーン、バンコク				
目的・内容	北部タイにおけるタイ・ルー村落における伝統文化保存に関する研究				
主催学会団体等	0				
研究・調査発表等概要	タイ系民族の一つタイ・ルーは、中国雲南省西双版纳(しいさんばんな)タイ族自治州を中心に分布している。北部タイのタイ・ルー村落は、主として19世紀に、今日のタイ・ビルマ・中国国境付近の戦乱の中で、今日の雲南省西双版纳(しいさんばんな)タイ族自治州から移住したものが多く、出張者が30年間にわたり調査研究を継続してきた、ナーン県ターワンパー郡のノーンブア村もそうした村落の一つである。出張者は、とりわけ90年代におけるこの村落を含むタイ・ルー3か村のタイ国の経済成長・農村開発の進展による劇的な社会変化を記述分析してきた。その過程において、貴重な写真・録音などのデータを蓄積してきたが、一部を除いて未整理であり、現地の人々との共有も進展していない。一方、当該村落では、観光化や伝統文化保存への動きがみられ、90年代より、村落博物館が設立され、かつて使われていた生活道具などの展示が行われるようになった。若い世代は都会に流出する傾向がある一方、地域の見直しの意義を探る動きも見られるようになったという背景がそこにある。出張者は、自ら収集したデータをこうした村落博物館における展示の一部として展示するもしくは公開できるような映像・音資料を何らかの形で地域住民に公開できないかと考えてきた。この点に関して、しばしば現地調査協力者である、ノーンブア寺院副住職で、ニコタラム見習い僧中等学校長のプラ・コンシン氏としばしば相談を続けてきたが、今回、調査者の手持ちの3年に1度の守護霊祭の30年ほど前からの重要な場面をスキャンして送付、将来的に小規模でもデジタルミュージアムの開設ができないかという可能性をさぐった。また、近隣タイ・ルー村落やナーン市の伝統文化保存活動にかかわるキーパーソンと意見交換を行った。 今回は、現地がまれにみる大洪水にみまわれ、出張者も滞在期間のほとんどをその片付けなどの作業を手伝うことに費やすこととなった。しかし、そこには、村人の日頃からの助け合いの延長でとライングループの作成による迅速な情報交換という、対面と非対面を両立させた見事な復興作業をみることができた。プラ・コンシン氏も見習い僧中等学校と相互扶助関係にあるバンコク近郊の子ども財団やカンチャナブリー県の子ども村学園と連絡をとり、これらの人々が支援に来るという強いネットワークの存在を感じることができた。 一方、チェンマイ近郊で8年ほど前より短期で調査をくりかえしている、ドイサケット郡のムアンルワン村は16世紀という早い時期に雲南から移住したタイ・ルーの村である。その伝統文化伝承センターでは、かつての村の功績者の活動やかつての農具などが整理されて展示しており、また、このセンターを中心にして、伝統音楽・舞踊、伝統料理、伝統工芸などの村人への伝承活動のみならず、観光客を含む外部者へのタイ・ルー文化のアピールも行い、伝統文化を村の特徴とした、Community Based Tourismのモデル村ともなっている。今回は、村落博物館の現状、故地、雲南省西双版纳タイ族自治州との音楽・舞踊の相互交流の状況をインタビューするとともに、隣接するサンサーイ郡の幼稚園児のセンター見学のためのイベントに参加した。				
研究・調査発表等概要	タイ・ルー村落であるナーン県ターワンパー郡ノーンブア村の副住職及びニコタラム見習い僧中等学校校長プラ・コンシン氏は、バンコクのAI技術なども研究するプラチョムクラオトンプリ科学技術大学と交流があり、当大学は、今回の洪水の支援ネットワークの一つにもなっている。コンシン氏は、科学技術をもつ当大学とも、デジタルミュージアムに関する意見交換をした経験があり、本研究における将来的課題である「デジタル・ミュージアム」作成のためのパートナーとなりうることに、その協働の可能性を検討することができた。また、ノーンブア村と同じくタイ・ルー村落のドーンムン村の伝統文化保存のキーパーソンである元小学校教員のブンヤーン・カムユアン氏、ナーン伝統文化保存(古文書・遺跡をはじめとする)の中心人物であるナーン市在住の元サトリシーナーン高校の教員ソムチェット・ウィモンカセム氏と意見交換をする機会をもつことができた。ノーンブア村を超えた資料の共有の可能性を探ることができた。 ノーンブア村を含むナーン県の多くの村落では、若い世代の都会への流出と地域の再編の綱引きが進んできたが、今回の洪水という災害に直面したときに、住民のすぐに相互支援ができるような日頃からの相互支援ネットワークの存在を確認することができた。地域文化の保存活動は、こうした「地域力」持続の精神的支柱にもなりうると思われた。 チェンマイ県ドイサケット郡ムアンルワン村の伝統文化伝承センターを見学したサンサーイ郡サンパーパオ幼稚園の園児はほとんどがミャンマー・シャン州の主要民族タイ・ヤイ(タイ民族の1つ)出自であり、ミャンマーから北部タイへの出稼ぎ、移住の近年の増加を反映している。こうした現状を確認することができた。このように流動する地域社会及び観光化の中で、伝統文化の保存伝承が行われている現状を知ることができた。また、タイ・ルーの故地雲南省西双版纳(しいさんばんな)タイ族自治州との交流が続けられているという現状、そして楽器や踊り方の相違など、音楽・舞踊の実情についても新たな情報を得ることができた。				

出張日程		○ 出張期間内のすべての日の研究調査活動の詳細について、午前・午後ともに記入してください。 （活動内容、場所がわかるようお願いいたします） ○ すべての日程について書ききれない場合は、このページを複数枚コピーの上、記入してください。
8/20	午前	大阪関西空港より日本出国
	午後	バンコクスワンナプーム空港にてタイ入国、国内線に乗り換え、チェンマイ着
8/21	午前	チェンマイ大学図書館にて参考図書閲覧
	午後	調査準備（銀行口座確認、タイ携帯電話購入など）、チェンマイでの研究協力者と接触（元愛知大学講師イサラ・ヤナターン氏と会談、チェンマイ大社会学部教員クワンチワン氏とラインで連絡）、文献購入
8/22	午前	チェンマイから路線バスにてナーンへ
	午後	ナーン県ターワンパー着、洪水にみまわれたノーンブア村へ。プラ・コンシン氏と予定を確認
8/23	午前	プラ・コンシン氏とノーンブア村内の洪水後片付け必要道具（給水器具など）を集めに行く
	午後	プラ・コンシン氏とニコタラム見習い僧中等学校へ。見習い僧中等学校生徒と共に洪水のあとかたづけ（泥水の除去など）の手伝い。プラ・コンシン氏と出張者の収集資料の共有について検討
8/24	午前	プラ・コンシン氏とニコタラム見習い僧中等学校へ。洪水のあとかたづけ（泥水の除去など）の手伝い 子ども財団、子ども村学園の子どもたちも遠方より来て、支援物資運搬とともに片付けの手伝い
	午後	午前の活動の継続、より被害の大きいドーンタン村寺院の片付けの手伝いに向かう（見習い僧生徒、子ども財団、子ども村学園の子どもたち含む）。プラ・コンシン氏と出張者の収集資料の共有について検討
8/25	午前	プラ・コンシン氏とニコタラム見習い僧中等学校で洪水のあとかたづけ（泥水の除去など）の手伝いを行い、のち、ノーンブア村にて小学校における洪水のあとかたづけ（泥水の除去など）の手伝い。
	午後	同じくタイ・ルー村落のドーンムン村の伝統文化保存のキーパーソンであるブンヤーン・カムユアン氏、元サトリシーナーン高校教諭でナーン伝統文化保存の中心人物の一人、ソムチェット・ウィモンカセム氏と会談（プラ・コンシン氏同席）
8/26	午前	ナーン市において、パネー寺住職と環境保全を目的とした無農薬農園（珈琲栽培）を営むサクダー・タンマシリ氏と会談（プラ・コンシン氏同席）、伝統文化とともに環境保全の現状についての情報を得る
	午後	ナーンより路線バスにてチェンマイに移動
8/27	午前	チェンマイ大日本語科講師で文化人類学者若曾根了太氏と会談。チェンマイ大での研究状況に関する情報を収集
	午後	チェンマイにて、調査資料整理。チェンマイ大社会科学部研究員として滞在し、タイ・ヤイの仏教を研究する小島敬裕氏（津田塾大学）らと意見交換
8/28	午前	チェンマイ大学芸術センターにて開催された チェンマイ市からチェンマイ県ドーイサケット郡ムアンルワンヌア村に移動。
	午後	ムアンルワンヌア村の伝統文化伝承センターにて、センター長ブック氏から、伝統文化伝承活動の現状に関して情報収集（村落博物館の現状、中国雲南省西双版纳自治州との音楽・舞踊に関する相互交流など）
8/29	午前	隣接するサンサーイ郡の幼稚園児のムアンルワンヌア村の伝統文化伝承センター見学イベントに参加。タイ・ルーの歌・踊りなどへの参加、伝統家屋の室内見学など。
	午後	チェンマイ市へ移動。チェンマイ大学社会科学部社会学人類学科教員クワンチワン氏および人文学部観光学科プロイシー氏と意見交換
8/30	午前	チェンマイからバンコクへ移動（空路）
	午後	バンコクにて女性支援NGO“FOWIA”の元メンバー、ピアナン氏のご主人新田障円氏と仏教とNGOの現状などについて意見収集（当初ピアナン氏も同席の予定であったが体調不良で不参加）
8/31	午前	バンコク・スワンナプーム空港より出国
	午後	大阪関西空港着、帰国
	午前	
	午後	
	午前	
	午後	
	午前	
	午後	
	午前	
	午後	

○本出張によって得られた研究成果を下記①～⑤で発表の予定があれば該当するものを記入してください。

- ①雑誌論文(著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)、
 ②図書(著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数)
 ③シンポジウム・公開講演会等の開催(会名、開催日、開催場所)、
 ④授業での活用、
 ⑤その他(学会発表、研究報告書の印刷等)

研究成果記入	①	本学紀要など(未定)
	②	『地域・歴史・福祉-タイ・ルー村落の守護霊儀礼の変化』(仮題)(1990年以後の調査研究をまとめた出版予定の単著)の内容に含める。
	③	
	④	地域住民の相互扶助を「福祉と地域デザイン」の授業の材料として用い、また、音楽・芸能に焦点をあてた地域づくりを「音楽と癒し」の授業内容に生かす。
	⑤	PASEA (Performing Arts of Southeast Asia) conferenceなど、音楽関係の国際学会や、研究協力者であるノンブア寺院副住職・見習い僧中等学校校長であるコンシン氏の僧侶としての教育活動・地域活動に関して「パーリ学・仏教文化学会」など仏教関係の学会にて報告

○該当するものを以下に記載し、添付資料としてご提出願います。【必須】

	発表の方	調査の方	セミナー参加者
記入例	プログラム、抄録、原稿、PPTスライド等の写し 記録写真	収集資料写し、調査状況関連の資料等の写し、記録写真	配布資料写し、講義記録写し、記録写真

添付書類記入【必須】	①	フィールドノート内容 ①ナーン2024 ②チェンマイ2024
	②	収集書籍 ① Phrawat Phongan lae Neokhit khong Achan Tnet Careonmuang (タネート先生の研究の軌跡) ② 30chat nai Chiang Rai (チェンラーイにおける30の民族) ③ Mahori Isra pan Tai (東北タイ南部のマホーリー楽団) ④ Rasidatton Nuat Paen Thai tamrap Wat Pho (ルーシーダットン ワット・ポー式タイマッサージ)
	③	
	④	
	⑤	

次ページからの写真資料等はWebページでの公開を省略させていただきます

※意見等欄は記入不要です。

※意見等	1	印
	2	印
	3	印